



三次神経内科クリニック 花の里



Vol. 7 2016. 秋号

ご挨拶 医療法人微風会 三次神経内科クリニック花の里 院長 伊藤 聖

備北地区でもすごい速さで高齢化がすすんでおります。高齢化が進むにつれ認知症の人数も増え、徐々に社会問題となっております。認知症の患者さんは今後も増え続け、人口に占める割合も高くなると思われれます。

当院は平成 21 年の開院以来、神経内科・老年科疾患を対象に医療・ケアを提供してまいりました。平成 25 年 2 月、県より認知症連携拠点医療機関の指定を受け、平成 27 年には認知症疾患医療センター診療所型の指定を受けました。当認知症疾患医療センターは、認知症の鑑別診断、治療、行動心理症状・身体合併症の治療、医療機関・地域包括支援センター・介護保険サービス事業所など各機関との連携、研修など様々な形で地域の認知症の方々の医療・支援を行っております。認知症は「治る病気」ではありませんし、また、年齢を重ねることによって誰もがなり得る疾患です。最後までその人らしく生きるため「もの忘れから終末期まで」医療とケアが受けられるようお手伝いをさせていただきます。

認知症研修会を実施しました！

2016 年 9 月 17 日（土）CC プラザ 3 階ホールにて認知症研修会を開催しました。鳥取大学医学部保健学科教授 浦上 克哉 先生をお迎えし、「認知症予防とアロマセラピー」と題して、認知症予防の概念から認知症予防に効果的なこと、アロマセラピーについてなど幅広くご講演頂きました。

・創造的なことをする（短歌や俳句を作る、日記を書くなど）・運動をする・笑う など、脳に刺激のある生活を送ることが認知症予防に効果的であるという話をして頂きました。また、アルツハイマー型認知症では、嗅覚が最初に障害されるといわれており、効果のある本物のアロマオイル（無農薬で栽培した植物から抽出したオイル）を使用したアロマセラピーを実施することで、嗅覚機能に働きかけ、認知機能の改善がみられたという研究についてのお話が印象的でした。

当日は多くの地域の方々・関係機関の方が参加して下さり、遠方からも参加して頂きました。今後も定期的に認知症研修会を開催してまいりますので、ぜひお気軽にご参加ください。





各疾患と診断後の関わり方について



今回はアルツハイマー型認知症とレビー小体型認知症についてかかわり方のポイントをお話します。

アルツハイマー型認知症 (AD)

もっとも罹患率の高い認知症です。以下 AD とします。記憶障害が中心で物忘れが必ずと言っていいほどおこります。「同じ事を何度も聞いたり話す」「いつも探し物をしている」「今の事はすぐ忘れるのに昔の事は良く覚えている」等、記憶力の低下による言・行動に周囲は戸惑い困惑していきます。

過去と現在のギャップに本人も家族も中々受け入れられません。周囲が本人の変化に気づいた時点での早期受診のメリットはここにもあります。(少しでも早く本人の不安に寄り添う事が病気の進行に影響するであろう事は否めないのです。)AD は色々な事を忘れてしまうし、覚える事がとても苦手な病気なんです。その為に日常生活に於いて失敗や混乱が生じてしまいます。だから AD の人はしっかりしようと必死なんだと思います。失敗して怒られたくないし恥もかきたくない。馬鹿になんかされたくない。そんな気持ちはあってもどうして良いか判らず適切な判断もできないし、上手く言葉で表現する事も苦手になってしまいます。でもそんな時、周囲のちょっとした声掛けや手助けで失敗せずに済む事がたくさんあります。例えば、トイレに行き出てきた時、一言「手を洗った？」と声を掛けたら本人は手が洗えます。手を洗わない事を責めるのではなく気付かせてあげる事がケアです。AD の人は頭で考える事が難しくなります。どこで情報をキャッチしているのか・・・それは感情の動きです。相手の表情・言い方・声のトーン・雰囲気などに神経を研ぎ澄ませて感じ取ろうとしていると思います。何もかも分からなくなるのが AD ではありません。むしろ忘れてしまう自分をどう守って行けば良いのか誰よりも悩み苦しんで生活しているのかもしれない。忘れる事が病気の本人に、「忘れるな！」と言う方が無理な話ですよね。同じ話を何度も聞くのは、本当に覚えていないから。覚えていたら誰だって何回も聞きたくないでしょう。しかも迷惑そうな返事をされてまで・・・昔得意だった事が今も得意とは限りません。今何が出来て何が出来なくなっているのか。出来る事は頑張ってもらうけど、出来ない事は無理矢理しなくてもいいと周囲が思える事は必要です。本人が苦手になった事をどう支えていくのか。しっかり者だった以前にこだわらず“今が普通なんだね”ってありのままの本人を認めてあげる事が出来ればいいなと思います。それが、個々の尊厳をまもる事です。

AD は進行します。現在の医療では治る事は期待できません。だからこそ、認知症のあなたのままを受け入れたい。

✿ レビー小体型認知症 (DLB) ✿

幻覚・妄想が主症状の認知症です。以下 DLB とします。初期の段階では比較的記憶が保たれていますが、実際には無い物が見えたり聞こえたりします。本人は気持ちが悪かったり、怖がったりする事があります。一般的には人・虫・小動物など生き物が多い傾向があります。布団の中に蛇がいっぱいいる・置物に虫が無数についている・窓の外の木が揺れただけで「泥棒がいる。」「警察を呼べ!」と大騒ぎする……。周囲には全く見えていない世界なので家族も対応に苦心します。しかし、本人にはちゃんと見えており不安でたまらないのです。

基本的な対応は“否定せず一緒に幻覚の世界に入る”事だと言われているものの、「ない物が見える人」と「見えないのに見える振りをしなくてはならない人」と双方が混乱し戸惑わなくてはならないのです。「幻覚・妄想」はDLB全ての人が同じものを見たり聞こえるわけではありません。病気だから!で決めつけるならば各々違う物が見えるのはおかしいですね。幻覚は「脳」で見えても出現する内容はその人なりの心理的背景や環境要因が影響しているのかもしれませんが。頭と心は連動しています。心の動きが如何に反映しているのか、介護側の方は少しでも良いので関心を抱いて下さい。理由もなく「誰かが家の中に隠れている」訳ではないのです。

毎日頻回に見える幻覚に対して「そうよね～」ばかりは言えないと思います。せめて5回のうち2回でも共感してあげて下さい。それが本人の安心に繋がります。

また、DLBはパーキンソン症状とも関係があります。関節が硬くなる・表情が乏しくなる・転び易くなる……などパーキンソン病と似た様な症状が出てきます。バランスを崩して怪我などしないようにする事も大切です。DLBは一日のうちでまたは、日によって症状が良い時と悪い時があるのが特徴です。何かをする時には状態の良い時を見計らって声掛けをしていくと上手くいく事があります。中々繊細な病気ですが、かかりつけの先生方とよく相談して、リハビリなども挑戦してみてください。

多少でも参考になれば良いのですが……。

次回は前頭側頭型認知症と血管性認知症のケアポイントをお話できる予定です。

三次神経内科クリニック花の里 主任看護師 武内 壽磨子 

認知症相談専用電話窓口を設置しております

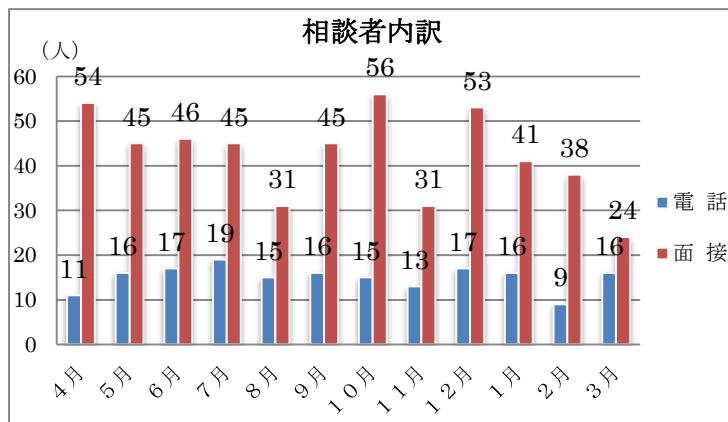
【時間】 9:00~12:00・14:00~17:00

(月~土 祝日・休診日を除く)

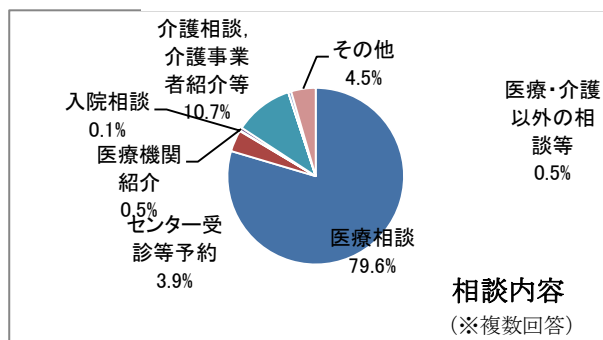
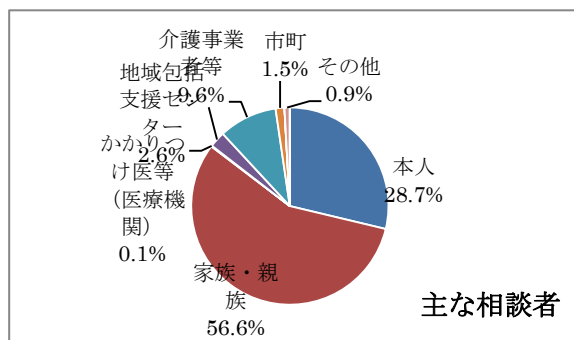
【電話】 0120-870-318 (相談窓口専用電話)



平成 27 年度実績報告



平成 27 年度の実績を報告します。
 「相談件数」は前年より若干減少しておりますが、「主な相談者」や「相談内容」の内容やその割合はほぼ変わらない結果となりました。
 患者さま・ご家族さまだけでなく、ケアマネさん、施設・デイサービスの職員の方からの相談にも応じております。お気軽にご利用ください。



ほっとひと息カフェ

を実施しています♪

医療・介護に関する何でも相談コーナーとして
毎週木曜日の午後 14:00~外来待合室の一角でカフェコーナー
 を設けています。相談員・看護師・心理士・作業療法士などが皆様のご相談に対応します。また、同じ悩みを持った方々との交流の場にもなれば…と思っております。あまり広いスペースではないので、一度に数人程度の対応となりますが、ぜひ気軽にお立ち寄りください。

どなたでも
ご自由に



医療法人微風会
 三次神経内科クリニック花の里
 〒：728-0013
 広島県三次市十日市東 4-3-10
 TEL：(0824) 63-0330
 FAX：(0824) 63-0331